

TPP 関連法案が特別委員会で強行採決

TPP 協定と関連法案が本日（4日）午後、特別委員会で強行採決されました。国会前には 300 人ぐらいの人が集まっていたが、悔しい思いです。

ようやく中身の議論に入った途端に強行採決するのですから、無茶苦茶です。与党の議運委員長にも知らされていなかったとのこと。

本会議でのパリ協定承認よりも TPP を優先したことに、安倍政権の特質が浮かび上がります。8 日の大統領選までに衆院で可決して米国に対するリーダーシップを発揮したいという安倍首相の幼児じみた願望がなせる業なのでしょう。

衆院本会議での採決は 8 日と報じられていますが、参院での審議もそう簡単ではないでしょう。関連法案は 30 日ルールでは成立しません。来週も国会前の行動が続きます。（S）

## TPP 関連法案

### 目次

- ・ 2016. 11. 3（木）TPP 衆院通過 来週以降に 農相発言で迷走 日本経済新聞
- ・ 2016. 11. 4（金）TPP 承認案・関連法案、衆院特別委で可決 日本経済新聞
- ・ 2016. 11. 5（土）TPP、衆院委で可決 8 日にも衆院通過 民進・共産は抗議 日経
- ・ 2016. 11. 5（土）野党の戦術「日程闘争ばかり」「仕方ない部分も」 日本経済新聞
- ・ 2016. 11. 5（土）TPP、混迷審議に注文 有識者に聞く 日本経済新聞電子版
- ・ 2016. 11. 5（土）< TPP 採決 > 自民内調整に不手際「パリ協定」に波及 毎日新聞
- ・ 2016. 11. 3（木）NHK ニュース 9。TPP で商機をつかめ！ 岩上ツイート

日本経済新聞朝刊 2016.11.3 [http://www.nikkei.com/article/DGKKASFS02H5K\\_S6A101C1PP8000/?n\\_cid=SPTMG002](http://www.nikkei.com/article/DGKKASFS02H5K_S6A101C1PP8000/?n_cid=SPTMG002)

## TPP 衆院通過 来週以降に

### 農相発言で迷走 野党、辞任要求強める

2016/11/3 付

日本経済新聞 朝刊

国会は 2 日、環太平洋経済連携協定（TPP）承認案・関連法案の審議日程を巡って与野党が再び対立し、紛糾した。発端は「強行採決」を巡る自らの発言を「冗談」とした山本有二農相の発言だ。与党は野党の辞任要求を拒否したが、いったん決まっていた 4 日の衆院本会議での採決は見送る方針。今国会で成立する見通しは変わらないものの、衆院通過は来週以降にずれ込む。



「農相が辞任しないと審議は続けられない」。2日の衆院TPP特別委員会の理事会で、民進党は与党が提案した4日の特別委での採決をこうはねつけて退席した。このため、与党は4日の特別委と衆院本会議の開催をそれぞれ委員長職権で決定。同日中に特別委だけで採決する構えで、8日の衆院通過をめざす。

承認案の扱いを巡っては、1日に自民、民進両党が2日の特別委、4日の衆院本会議での採決で合意していた。採決日程を巡る攻防が一息ついたところで飛び出したのが農相の発言だった。

農相は1日夜の自民党衆院議員のパーティーで「冗談を言ったら、首になりそうになった」と会場の笑いをさそった。農相は2週間前に佐藤勉衆院議院運営委員長（自民）のパーティーで、TPP承認案に触れ「強行採決するかは佐藤氏が決める」と軽口をたたき、発言の撤回とおわびをしたばかりだった。

最初の発言を農相がおわびしたことでいったん矛を収めた野党も、再び怒りを爆発させた。とりわけ問題視しているのは農相が農協関係者に「農水省に来ればいいことがあるかもしれない」と言った点だ。利益誘導を示唆したとも受け取れるため、民進党の蓮舫代表は2日の常任幹事会で「政官業の癒着だ。山本農相の下で大事な自由貿易の議論はできない」と批判した。民進、共産、自由、社民の野党4党は「資質に欠ける」と辞任を求めることで一致した。

菅義偉官房長官は2日の記者会見で「辞任するような話ではない」と農相を擁護し、自民党は辞任要求に応じないと民進党に伝えた。ただ、政府・与党内でも農相への風当たりは厳しい。自民党幹部は「苦勞して組み立てた日程が農相1人に壊された」と憤っている。7日のはずだった参院での審議入りはずれ込む見通しだ。

とはいえ、今辞めさせるわけにはいかない事情もある。「成立に向けてより時間をかけないといけない事態に発展する」（自民党幹部）からだ。政府は8日の米大統領選までに承認案の衆院通過にこぎ着け、米国に早期承認を促す思惑もある。一方、民進党の山井和則国対委員長は記者団に「4日の特別委が強行されるなら他の法案にも悪影響が及ぶ可能性がある」とした。

## TPP承認案・関連法案、衆院特別委で可決

2016/11/4 17:53

環太平洋経済連携協定（TPP）承認案と関連法案を審議する衆院特別委員会は4日夕、自民、公明、日本維新の会の各党の賛成多数で可決した。与党は週明け8日の衆院本会議での可決と参院への送付をめざしている。今国会の会期末は30日まで。与党は会期延長も視野に入れ、承認案と関連法案をセットで今国会で成立させたい考えだ。



衆院TPP特別委で採決に反対し委員長席に詰め寄る民進、共産の委員ら。左端は山本農相（4日午後）

承認案は参院に送付後30日で自動的に成立する憲法の規定がある。11月30日までの会期を12月上旬まで延ばせば、承認案は成立が確実になる。だが、関連法案も成立させなければTPPの発効に必要な要件を満たさないため、政府・与党は関連法案も今国会で成立させる意向だ。

4日午後の衆院特別委は冒頭、「強行採決」をめぐる自らの発言を「冗談」とした山本有二農相が陳謝。「私の不用意な発言でふたたび皆さまに大変ご迷惑をおかけしたことを心からおわび申し上げます」と、発言を撤回。その後の質疑では辞任しない考えを示した。

野党の民進、共産両党は農相の辞任を要求し、委員会を一時、退席した。質疑予定時刻になっても議員が登壇しないため、委員会は1時間強にわたって誰も発言しない「空回し」が続いた。採決間近になって両党は委員会室に戻り、委員長席を囲んで抗議したが、承認案などは可決された。



# TPP、衆院委で可決 8日にも衆院通過 民進・共産は抗議

2016/11/5 付

日本経済新聞 朝刊

環太平洋経済連携協定(T P P)承認案・関連法案を審議する衆院特別委員会は4日、与党などの賛成多数で承認案などを可決した。民進、共産両党が抗議する中、与党が採決に踏み切った。8日の衆院本会議で可決し、参院に送付することをめざす。民進党などは本会議への欠席も辞さない構えで、T P Pを巡る与野党の対立が激化している。(関連記事政治面に)

承認案は参院に送付後30日で自動的に成立する憲法の規定の活用も視野に入れる。与党は11月30日までの会期を12月上旬まで延ばすことを検討し、承認案の成立を確実にしたい考え。8日に衆院通過すれば9日にも参院審議に入る方針だ。

野党は山本有二農相の「強行採決」などに関する問題発言に反発し、農相が辞任しない限り審議に応じない姿勢を示している。4日の衆院特別委は塩谷立委員長の職権で開催。民進、共産両党は途中退席するとともに、採決時は塩谷委員長の席を取り囲んで抗議した。

衆院特別委の採決後、民進、共産、社民、自由の野党4党は大島理森衆院議長と会い、採決の撤回と本会議採決を認めないよう求めた。一方で同日の衆院本会議は見送られ、2020年以降の地球温暖化対策「パリ協定」承認案のほか8法案の採決が先送りされた。

民進党の蓮舫代表は記者団に「強行採決以外の何ものでもない」と批判。農相に関しては「閣僚の不適格性も含めて不信任案の提出は視野に入ってきている」と語った。

農相は4日の衆院委で「おわびして発言を撤回する」と陳謝。一方で「職責を全うするため努力を重ねていきたい」と辞任を否定し、菅義偉官房長官も会見で「反省し、国会で発言を撤回した」と語り、辞任の必要はないとの認識を重ねて示した。

日本経済新聞朝刊 2016.11.5 [http://www.nikkei.com/article/DGKKZO09193000V01C16A1PP8000?n\\_cid=SPTMG002](http://www.nikkei.com/article/DGKKZO09193000V01C16A1PP8000?n_cid=SPTMG002)

## 野党の戦術 「日程闘争ばかり」「仕方ない部分も」

2016/11/5 付

民進、共産両党は4日、農相が辞任要求に応じないことや、パリ協定の承認案を審議する本会議が開かれずに特別委が始まったことに抗議し、締めくくり総括質疑を退席した。日本維新の会の質疑が終わり塩谷立委員長（自民）が採決しようとする議長席を取り囲み、怒号も飛んだ。

「不正常的な状態で強行採決が行われた。無効だ」。民進党の山井和則国会対策委員長は野党4党で大島理森衆院議長に採決を認めないよう申し入れした後、記者団にこう訴えた。いったんは2日の委員会採決、4日の本会議採決を与党と合意したが、農相発言で態度を硬化。法案内容ではない領域で同日の採決を見送る戦術をとった。

竹中教授は「民進党は日程闘争ばかりで、反対しかしていない」と、中身のある法案審議ができていないと指摘。「それではいつまでたっても党勢は回復しない」と批判した。

一方、野党の対応は限られるとの声もある。駒沢大学の大山礼子教授は「政府の答弁は野党の追及をはぐらかしている。時間がたつと採決されてしまうので、日程闘争も仕方ない」と理解を示す。

与野党では日程闘争ではなく、法案の逐条審査など「中身の議論」を重視する国会改革が取り沙汰される。だが「与党が強引に採決した」との主張は有権者に訴えやすい。国会は会期があり、会期内に成立しなければ法案は廃案や継続審議になり、政権に打撃を与えられる。野党には強力な武器のため改革は遠い。

#### TPP審議は混乱が続いてきた

9月 中旬	野党が「SBS米」を巡る不透明取引の究明を求め審議入りに反対
29日	衆院特別委員の福井照氏が「強行採決という形で実現する」と発言し、その後辞任
10月 14日	承認案・関連法案が衆院特別委で審議入り
18日	山本農相が「強行採決するかは佐藤勉衆院議院運営委員長が決める」と発言
19日	農相が発言を撤回し謝罪
11月 1日	自民・民進が4日の本会議採決で合意 農相が「冗談を言ったら首になりそうになった」と再び失言
2日	野党が農相の辞任を要求し採決合意も撤回。与党は2日の委員会採決を見送り
4日	与党と日本維新の会の賛成で承認案・関連法案が衆院特別委で可決

日本経済新聞電子版 2016.11.5 <http://www.nikkei.com/article/DGXLZO09192910V01C16A1PP8000/>

## TPP、混迷審議に注文 有識者に聞く

国会は4日、環太平洋経済連携協定（TPP）承認案・関連法案をめぐる与野党の対立が決定的になった。野党は「強行採決」などに関する発言をした山本有二農相の辞任を求めたが、与党はこれを受け入れず、衆院特別委員会での採決に踏み切ったからだ。農相は辞任に値するのか、野党の戦術は妥当なのか。国会の混乱について有識者に意見を聞いた。

## ■農相の発言

国会の混乱を招いたのは山本有二農相の発言だ。1日夜に開いた自民党議員のパーティーで自らの「強行採決」発言に「冗談を言ったら、首になりそうになった」と言及。出席した農協関係者に「農林水産省に来れば、いいことがあるかもしれない」とも語った。

政治アナリストの伊藤惇夫氏は「閣僚として不適格だ」と厳しい。農協関係者に向けた発言は「利益誘導的と取られかねない発言で、資質的に疑問を抱かざるを得ない」と話す。

農相は4日の衆院特別委員会で「私の不用意な発言で、再び大変迷惑をかけたことを心からおわびする」と謝罪し、発言を撤回。辞任も否定した。だが自らの発言撤回はここ半月で既に2回目。与党からも「不信任案を出したいのは自分たちだ」との声が出る。

だが、農相を交代させると、野党が審議のやり直しを求めてさらに混乱し、安倍晋三首相の任命責任にも波及しかねない。自民党幹部は「いたずらに閣僚辞任のハードルを下げることになりかねない」と語る。

政治学者からは、TPPの重要性と閣僚の資質をしゅん別した議論を求める声もある。政策研究大学院大の竹中治堅教授は「軽率な発言だが、辞任するほどではない」と擁護。中央大の高橋亮平特任准教授は「政局で揚げ足をとるようなやり方は国民が期待していることなのか」と指摘した。

## ■野党の戦術

民進、共産両党は4日、農相が辞任要求に応じないことや、パリ協定の承認案を審議する本会議が開かれずに特別委が始まったことに抗議し、締めくくり総括質疑を退席した。日本維新の会の質疑が終わり塩谷立委員長（自民）が採決しようとする議事録を取り囲み、怒号も飛んだ。

「不正常的な状態で強行採決が行われた。無効だ」。民進党の山井和則国会対策委員長は野党4党で大島理森衆院議長に採決を認めないよう申し入れた後、記者団にこう訴えた。いったんは2日の委員会採決、4日の本会議採決を与党と合意したが、農相発言で態度を硬化。法案内容ではない領域で同日の採決を見送る戦術をとった。

竹中教授は「民進党は日程闘争ばかりで、結局反対しかしていない」と、中身のある法案審議ができていないと指摘。「それではいつまでたっても党勢は回復しない」と批判した。

一方、野党の対応は限られるとの声もある。駒沢大学の大山礼子教授は「政府の答弁は野党の追及をはぐらかしている。時間がたつと採決されてしまうので、日程闘争も仕方ない」と野党に理解を示す。

与野党では日程闘争ではなく、法案の逐条審査など「中身の議論」を重視する国会改革が取り沙汰される。だが「与党が強引に採決した」との主張は有権者に訴えやすい。国会は会期があり、会期内に成立しなければ法案は廃案や継続審議になり、政権に打撃を与えられる。野党には強力な武器のため改革は遠い。

## ■急いだ採決

政府・与党はなぜ採決を急いだのか。8日の米大統領選前に衆院を通過させ、今国会での協定承認を事実上、確定することにこだわったためだ。

米国政治が専門の西山隆行・成蹊大教授は「日本が承認を先行しても米国内の慎重な雰囲気は変えられないが、日本に再交渉の意志がないと示す意味はある」と語った。新政権の人事に日本の意向を反映してもらうには「大統領選までに日本の立場を示す意義はある」と話す。

米大統領選に間に合わなくても、来年1月の新大統領就任までの米議会の「レームダック・セッション」の期間に日本が承認できるならいい、との声もある。

だが、米議会に詳しい前嶋和弘・上智大教授は「レームダック・セッションの日程は流動的で、安倍政権に選択肢はない」と話す。「日本が今国会で承認すれば、オバマ米大統領が議会を動かす大きな助け舟」と指摘した。

首相の経済政策「アベノミクス」への貢献を指摘するのは大和総研の熊谷亮丸チーフエコノミスト

トだ。T P P発効で日本の産業が「海外との厳しい競争にさらされてイノベーションが生まれ、労働生産性も上がる」と指摘。中国の台頭を念頭に、貿易や投資などのルールづくりを共通の価値観をもつ国々で進める「政治的な意味でも重要」と語った。  
(日本経済新聞電子版)

Yahoo ニュース・毎日新聞 2016.11.5 <http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20161105-00000004-mai-pol>

## ＜T P P採決＞ 自民内調整に不手際 「パリ協定」に波及

毎日新聞 11/5(土) 7:30 配信



衆院T P P特別委員会の冒頭、民進党議員らの抗議を受ける中、自らの発言について陳謝する山本有二農相（左）＝国会内で2016年11月4日午後2時半、川田雅浩撮影

環太平洋パートナーシップ協定（T P P）承認案・関連法案をめぐる与野党の対立は「パリ協定」承認案の採決日程に波及した。パリ協定は与野党一致で4日の衆院本会議で承認の予定だったが、自民党内の調整の不手際でT P P採決が優先された。【朝日弘行、高橋克哉】

食い違いは4日午後2時半過ぎに露呈した。野党の抵抗の中で衆院T P P特別委員会が始まった、と聞かされた自民党の佐藤勉衆院議院運営委員長が「なんで勝手に開くんだ」と怒りをあらわにした。山本有二農相への辞任要求が収まらず、午後1時開始予定の本会議を遅らせ、議運委で野党と調整を続けていたからだ。T P P委の塩谷立委員長（自民党）や森山裕理事（同）は、佐藤氏に開会を連絡していなかったという。

山本農相の最初の失言は「強行採決するかどうかは佐藤勉さんが決める」だったが、その佐藤氏を省いて採決の動きが強まる皮肉な形となった。これに野党は態度を硬化させ、本会議は開かれなかった。



大島理森衆院議長や竹下亘党国対委員長、佐藤氏らの当初の見通しでは、本会議でのパリ協定承認を優先し、その後の予定のTPP委での採決は7日に遅らせることも織り込んでいた。

すれ違いの背景には、野党への配慮を重視する大島議長や佐藤氏と、円満採決は困難とみる塩谷氏らTPP委の現場の思惑の違いがある。政府・与党が「10月中の衆院通過」を目指しつつ、誤算続きで採決日程が何度も後ろ倒しになったのも調整を複雑にした。

民進党の泉健太議運委理事は「佐藤氏がTPPの採決を知らなかったのに驚いた。(大戦前の) 関東軍と当時の日本政府のような、現場の暴走を抑えられないむちゃくちゃな国会運営だ」とこきおろした。

#### ◇再び解散風か

TPPの衆院通過ずれ込みで今国会の会期延長が不可避となったことで、与党の一部には12月下旬までの大幅延長論も浮上している。早期の衆院解散・総選挙に関する発言は沈静化していたが、延長幅の議論とともに「年内解散」の可能性が再び取りざたされそうだ。

与党内では、安倍晋三首相が早期解散に踏み切る可能性が指摘されていたが、10月の新潟県知事選で与党推薦候補が敗れたことや、「解散風」を吹かせてきた自民党の二階俊博幹事長が10月下旬から「解散どうこうということは安倍首相の念頭にはない」とブレーキを踏み始め、当面は遠のいたとみられていた。

会期延長幅が解散戦略と絡められるのは、解散を国会会期中に行う慣例のためだ。12月上旬までの「小幅」に加え、大幅延長が浮上するのは、年内解散の選択肢に改めて注目を集め、勢いづく野党をけん制する狙いもありそうだ。

野党は衆院選に向けた準備が十分とはいえず、早期解散に警戒感がある。民進党の野田佳彦幹事長は4日の会合で「解散風が吹いたりやんだりしているが、よく分からない。常在戦場で安倍政権を倒しにいかなければならない」と語った。

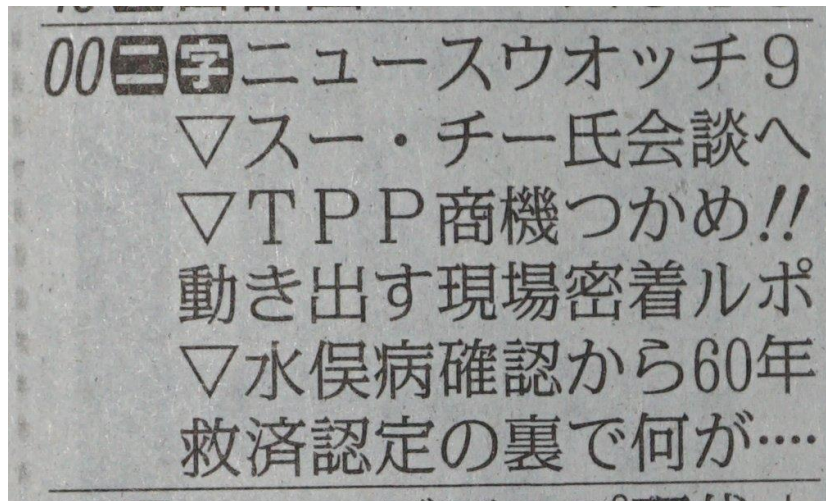
#### メールより

NHKを筆頭に、マスメディアは国民主権を売り渡す条約に何の抵抗もしなかったこと。これは100年経っても200年経っても記憶に刻みつけましょう。

昨夜、岩上さんが打ったツイートを、ぜひ、長く長く記憶し続けてください。



※11月3日岩上さんのツイート <https://twitter.com/iwakamiyasumi/status/794263268894224385>



[@iwakamiyasumi](https://twitter.com/iwakamiyasumi)

NHK はもう、自分が狂っていることも自覚できなくなっているのではないか？

真正の狂気。RT [@bionzx](https://twitter.com/bionzx):

NHK ニュース 9。TPP で商機をつかめ！

どあほう。お前が「正気」に戻れ。

12:41 - 2016年11月3日